

添加はむしろ特異的結合の低下を招いた。

以上の成績から、標準曲線の作製と、酸水解尿の稀釀には、6% BSA を含む 0.2 N 磷酸緩衝液 pH 7.4 を用いることとした。また尿の酸水解の条件は、等量の 0.2 N 塩酸による 30~36 °C, 24 時間の水解が望ましく、RIA に際しての pH は 6.5~7.5 で値が変わらないことを確かめた。それ故尿 Ald の測定は、酸水解尿を上述の buffer で 10倍稀釀し、Dainabot 社製 kit を用い、自製の標準液によって標準曲線を作製する方法によった。標準液は Ald 16 µg/ml ethanol 溶液を、水で 100 倍稀釀後、上述の buffer で稀釀した。本法の精度、回収率、稀釀曲線は満足すべきもので、CIS 社製 ³H-Ald の kit による測定値との相関も良好であった。正常者の平均は $5.0 \pm 1.8 \mu\text{g}/\text{day}$ ($M \pm SD$) で、高アルドステロン症で高値、Addison 病で低値であった。

結論：本法は病態をよく反映し、有用な測定法といえる。

32. Glucagon RIA kit の使用経験

白山 究 足立 和秀

住田 安弘 花木 雅生

宮地 一馬

(三重大・3 内)

信田 憲行

(同・中放)

中川 肇

(同・放)

Dainabot RI 研究所のグルカゴン RIA kit について基礎的ならびに臨床的に検討し、われわれの 30 K を用いた PEG 法と比較した。

本法は B/F 分離に 2 抗体法を用い、検体量が 100 µl と少量ですみ、標準液に carrier を添加している点に特徴がある。intra-, inter-assay の CV(%) は、それぞれ平均 10.4, 8.3 であり、回収率および希釀テスト共に良好な成績が得られた。kit とわれわれの測定法との相関係数は、44 検体において $r=0.848$, $Y=0.25X+50.5$ と相関はみとめられたが、kit では低値を示した。標識グルカゴンの純度をロ紙電気泳動を行ない求めたが、損傷グルカゴン、Free ¹²⁵I はそれぞれ 1.0, 0.9% できわめて純粋であった。正常人 10 名の空腹時グルカゴン値は 50~125 pg/ml に分布し、平均 $72 \pm 26 \text{ pg}/\text{ml}$ であった。一次性糖尿病患者に 50 g GTT、アルギニン負荷試験を行なった成績では、われわれの測定法による値と良く相関し、GTT では paradoxical な上昇を示し、アルギニン負荷試験では過剰反応を示した。

以上のように、グルカゴン RIA キットは、基礎的、臨床的検討により満足される成績が得られ、十分実用に耐えうることが認められた。